

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は 113 ~ 114 円台でのレンジ相場を継続か

[11月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月1日~11月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	113.92	114.44(1)	113.46(2)	113.68	-0.27
ユーロ・ドル	1.1557	1.1617(4)	1.1528(4)	1.1552	-0.0006
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,611.57	+718.88	日本10年債利回り	0.060	-0.036
ダウ平均株価	36,124.23	+304.67	米10年債利回り	1.526	-0.026
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本9月景気動向指数速報値
スイス10月雇用統計
中国共産党の第19期中央委員会第6回全体会議(6中全会、11日まで)
- 9日 日本9月経常収支
独9月貿易収支、独9月経常収支
独11月ZEW景況感指数
米10月生産者物価指数
- 10日 中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数
独10月消費者物価指数確報値
米10月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
米10月財政収支
- 11日 豪10月雇用統計
英9月鉱工業生産指数
英第3四半期国内総生産(GDP)速報値
英9月製造業生産指数、英9月貿易収支
- 12日 スイス10月生産者・輸入価格
ユーロ圏9月鉱工業生産指数
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数

【前回のレビュー】FOMCでは過度な利上げ前倒し観測につながらないように慎重な配慮を示すこととなり、FOMCの結果発表の内容も市場予想から大きく逸脱したものにはなりにくいとみられる。このため、ドル円は113~114円台を中心とするもみ合いが見込まれる。なお、米長期金利が上昇するようなら115円乗せを試す場面も見られそうとした。

【FOMCではテーパリングを決定】

11月2~3日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)では、量的緩和の縮小(テーパリング)の開始を決定した。米国債とMBS(住宅ローン担保証券)を合計で月額150億ドル(米国債100億ドル、MBS50億ドル)ずつ減らしていく。現在は米国債を月額800億ドル、MBSを同400億ドル購入しており、これを毎月150億ドルずつ減額すると、来年6月には債券購入が終了することとなる。

パウエル議長は記者会見で、「経済はテーパリングを開始する条件を満たしたこと、資産購入の減額を始めることを決定した」と述べた。また、「パンデミックが収束に向かうことで、供給面での制約が緩和され、インフレ率も低下に向かうだろう」との見解を示した。供給面での制約が解消する時期に関しては「非常に見通じづらい」と発

言している。

声明文では、現在のインフレ率が高止まりしている状況に関して、「一時的と想定されるような要因を広く反映している」としたものの、需要と供給の不均衡が起きていることにより、「いくつかの業種では、かなりの価格上昇が起きている」との見解を示した。

また、パウエル議長は「来年の後半までに最大雇用に達する可能性がある」との認識を示した。また、「今は利上げに時期ではない」として早期利上げ観測にクギを刺した。

F O M Cの結果に関してはおおむね市場の想定の範囲内にとどまった。テーパリングの終了時期やインフレ見通しに関してもサプライズはなかった。利上げ時期のヒントに関しても特になかった。F O M C前後でドル円は1 1 4 円近辺でのみみ合いが続いた。4日には米長期金利の低下もあり、1 1 3 円台半ばまで下落する場面も見られた。

F O M Cではテーパリング開始は決定したものの、利上げ時期のヒントはなく、ドル円を方向付けるような内容とはならなかった。今後は米経済指標の動向や日米の株価の動きがドル円の動きに影響を与える要因となりそうだ。そうした中、ドル円は1 1 3 ~ 1 1 4 円台でのレンジ相場が継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、1 1 3 . 0 0 ~ 1 1 5 . 0 0 円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本9月景気動向指数速報値、9日に日本9月経常収支、米10月生産者物価指数、10日に米10月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米10月財政収支、12日に米11月ミシガン大学消費者信頼感指数などがある。

【ユーロドルは方向性を探る動き】

ユーロドルは1 . 1 5 ~ 1 . 1 6 台でのみみ合いが続いている。欧州中央銀行（E C B）のラガルド総裁は3日に「利上げの条件は、来年に達成する公算は小さい」「12月にパンデミック緊急購入プログラム（P E P P）P終了後の債券購入措置を発表する」などと述べており、今後もユーロの上値を抑える要因となる可能性がある。

10月28日のE C B理事会や11月2~3日のF O M Cなどを通過して、やや材料不足となっている。1 . 1 5 ~ 1 . 1 6 台での振幅となる中、やや上値の重い動きとなっている。経済指標の動向などに左右されつつも、みみ合いが続いて方向感を探る展開が続きそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1 . 1 5 0 0 ~ 1 . 1 6 5 0 ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日にスイス10月雇用統計、9日に独9月貿易収支、独9月経常収支、独11月Z E W景況感指数、10日に中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数、独10月消費者物価指数確報値、11日に豪10月雇用統計、英9月鉱工業生産指数、英第3四半期国内総生産（G D P）速報値、英9月製造業生産指数、英9月貿易収支、12日にスイス10月生産者・輸入価格、ユーロ圏9月鉱工業生産指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。